

No.2547

桧塚奥峰

日時： 2月11日(土)～12日(日)

参加： 鳴原(L)、岡本、佐々木(記)、右田(記)

11日(土)

土・日と特に日本海側は大雪との予想。大阪から奈良への交通にも影響がありそうであるが、状況を見ながら雪山を楽しみに出発した。車と電車で、先ずは大和高田の岡本家に8時30分集合。テント泊の為、それなりの荷物になる。

地元、岡本さんの口頭ナビで鳴原車で出発。東吉野方面に入ったあたりから、道に雪が目立ち始める。榛原から大又へのバスは、チェーン装着で完全装備である。明神平へは、大又から車でどれだけ入れるかが決め手、スノータイヤでどこまで入れるか。

七滝八壺を過ぎ、最終の駐車場への中点あたりで、路肩スペースに5～6台が止まって登山の準備をしている。我々の車は、滑るタイヤを少し手伝ってもらって、もう少し先に進み駐車する



雪の無い時の駐車スペース

(10:15)。チェーン装着でもう少し先へ入っている車がいるようで、林道には轍が続く。すでに、山は樹氷で真っ白である。私は軽アイゼンを着けて、出発(10:45)。

少し歩くと、綺麗に除雪して6台の車が、さらに先には1台路肩に駐車。最終の広い駐車場には、入れなかったようだ。ゲートで登山届を記入し歩きだす。

登山道には40～50cmの積雪だが、踏まれた跡が続いている。2つ3つの沢を慎重に渡り、滝へ。大きく膨らんだ樹氷が山を覆い尽くして、思わずカメラのシャッターを切る。途中の水場は凍てついていない為、水のボッカは無駄になったが、あきらめるしかない。少し風が出てきて、気温も下がっているようだ。

程なく上に小屋が見えてきて、一気に目の前が開けると、そこは白一色の明神平となる(14:00)。ガスっているが、降雪はないので助かる(フカフカの新雪が80～90cm)。すでに2～3パーティーが見え隠れしている。この時間であり、今日の活動は停止とする。我々は、東屋にテントを張らしてもらおう事にして、早速にスコップが大活躍。途中、ペアの登山者も東屋で昼食を取っていたが、お蔭様で屋根付きの専用スペースを確保する事ができた。1時間ほど後には、テント内で暖かく一杯飲む事ができた我々でした。

明日のスノーシューでのラッセルを覚悟しながら、21:00就寝。

(佐々木)



明神平への道



明神平



東屋を掘り下げテント

2/12（日）明神岳・桧塚奥峰登頂

（右田記）

早朝からガスっている。明神平は白一色。出発の準備をしていると5人パーティが先に出発していく。今日は楽をさせてもらおう。昨夜の宿「東屋」を9時に出発し、トレースに乗り、写真を撮りながら快適に登る。おまけにデイパックなのだ。トレースは薊岳ではなく、桧塚奥峰方面に向かっている。我々も奥峰を目指す。9時45分明神岳に到着。明神岳はこのあたりの最高峰だが何の変哲もないピークだ。青空でないのが残念だが、樹氷が美しい。アップダウンも適度でスノーシューで快適に歩いていると、先行パーティが休憩している。奥峰までの行程の半分手前ぐらいか。ここからトップを交代して我々がラッセルする。蒜山ほど勾配もないのであまり苦しまずに奥峰に11時5分に到着。ここまで岡本さんの的確なナビで迷わずに済んだ。頂上で証拠写真を撮り、昼食とする。時々晴れ間が覗くが長く続かない。それでも向かい側の桧塚は確認できた。トレースを辿り、引き返す。明神平に12時50分到着。日帰りの登山者が多い。昨日よりは軽くなった大型ザックを担ぎ、下山する。最後の林道は車で締め固められてツルツル。アイゼンを着けていない嶋原さんは歩くのに苦労されたようだ。14時50分駐車地点に到着。ちょうど本降りの雪となる。帰りの道はかなり除雪されており、スムーズに帰れた。快晴とはいかなかったが、雪山を堪能した二日間だった。



先頭に行く岡本さん



桧塚奥峰 1,420m



奥峰からの帰り



雪原と樹氷